

広報させば 情報カレンダー 06. 5月



日	月	火	水	木	金	土
	1 三川内焼はません祭り ~5日	2	3 憲法記念日 冒険・サンセットクルーズ ~7日	4 国民の休日	5 こどもの日 こどもの日クルーズ、動植物園無料入園、天体観望会(20日)	6
7 早岐茶市・初市 ~9日	8	9	10 中小企業金融公庫出張相談 佐世保市民展 ~14日	11 食育講座「こどもの食」(17日、6月12日) 医師による健康講話	12 発明相談	13
14 母の日サンセットクルーズ バードスクール	15	16	17 早岐茶市・中市 ~19日 市立総合病院の健康教室	18	19	20 自然観察エコツアー(21日) 動物獣舎探検隊(6月3日)
21 春期バラの栽培管理講習会 サツキ展示会 ~28日	22	23	24 みんなよっといで(31日、6月7日)	25 無料出張総合相談(26日)	26	27 早岐茶市・後市 ~29日 新茶まつり「しげもん市」(28日)
28 モイストポプリ作り講習会、キリンに接近!、みんなであそび	29	30	31 世界禁煙デー 食育調理実習会	毎月第1水曜 中小企業金融公庫出張相談 5月は第2水曜に開催(13~15時、佐世保商工会議所) 毎月第2金曜 発明相談(10時~15時30分、市役所商工労働課)		

6月上旬の主な行事予定

6/1 来春大学等卒業予定者合同企業面談会 「人権擁護委員の日」特設相談	6/4 デンタルフェスティバル カブトムシの飼育教室
6/2 健康ウォーキング大会	6/6 幼児食調理講習会(7日)
6/3 ウォーキング&ゲームラリー大会、天体観望会	6/7 早岐茶市・梅市(~9日)

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎0956-23-8199

火災情報 ☎0180-999-999

エイズ相談・性感染症相談

専用相談電話 ☎0120-104-783

Eメール shc783@city.sasebo.lg.jp

教育相談

青少年教育センター ☎0956-22-0077

(毎月第3日曜の13時~16時には、休日教育相談を受け付けています)

女性相談

スピカ ☎0956-24-6180

(水曜と祝日を除く毎日、9時~16時)

消費生活相談

市消費生活センター ☎0956-22-2591

(土・日曜、祝日、年末年始を除く毎日、8時30分~17時15分)

5月の健康テレホン

県保険医協会 ☎0956-23-4300

3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます

月 胸やけ

火 頸椎骨折

水 子どもの指しゃぶり

木 高齢者の鼻血

金 嘔吐ことの効用

土、日 子宮脱

人のうごき (4月1日現在)

総人口 255,765人(2,015)

男 120,038人(1,207)

女 135,727人(808)

世帯数 99,617世帯(420)

3月中のうごき

転入 2,463 転出 4,432

出生 202 死亡 248

見て、聞く
させば
市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)

NBC(9時25分) NIB(11時35分)

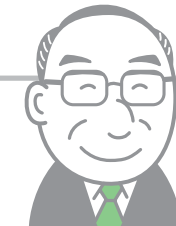
NCC(11時40分) KTN(11時40分)

ラジオ

NBC 毎週日曜日 9時25分

FM長崎 毎週火曜日 9時05分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄



こんにちは市長です。

「子ども子育て応援センター」
がオープン

去る4月3日は、平成18年度の仕事始めでした。新たに旧宇久・旧小佐々両町との合併で人口も25万人を超え、期待と不安が入り混じりながらの新たな船出です。

この日、市役所2階に「子ども子育て応援センター」が新しく設けられました。乳幼児から高校生くらいまでの子どもを育てる過程で、保護者の皆さまが抱える心配・悩みは多様です。本市では、そうした悩み事の相談は年間1万6千件にも及びます。

でも、この悩み事を市のどの部署に相談すればいいのか迷われる市民の方も多く、議会からもそうした指摘がありました。いわゆる「たらい回し」にされず、一カ所で悩み事に対応してくれる部署の設置はこれまでの大きな課題でした。新設された「子ども子育て応援センター」は、そうした市民の皆さまにお応えできると思います。

経験豊富で心優しいスタッフがそろっています。子育てに関する悩み事を抱える市民の皆さまをお待ちしています。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

佐世保市長 光武 顕

歴史散歩 490

御船渡神社 (母ヶ浦町)

将冠岳から流れ下る其の原川が平地にたどり着く場所は、小字で今里と呼ばれていました。川そばの高さ4mほどの岩の上に祀られているのが御船渡神社です。地名と同じ姓の旧家、今里広之助氏が昭和40年に建立した石祠に「今から600年前の永徳年中(1381~1383)阿波国の人々が船でこの地に上陸し、そのしるしに御船渡神社を建立、この地に居を定めて開墾して今里の名を残した」との趣旨が記されています。

石祠が立つ下は、旧相浦村時代の小野免、岩淵免、吉永免の境界が接しており、干拓されるまでは海だったことがうかがえます。其の原川は干拓地の用水として重要であり、近くには水神さまの祠が置かれています。こうした地境を接する地



には、古くから「ふなど神(岐神)」が全国的に祀られる例が多く、村境の「さいの神(塞神)」とともに、わが国古来の土俗神信仰の「ふなど神」が「船渡神」に変化したのかもしれない。

いずれにしても水利に恵まれ、小高い里山が連なる形は、まさに日本の村の原形であり、悠久の昔から人々が助け合って暮らし続けた日常がうかがえる、とても懐かしい風情を残しています。

「今里」の字の南には「京町」という字があって、おそらく平安時代の末法の世に、経塚を築いて弥勒菩薩の救済を願ったのでしょう。

この近くの旧家、沢田森行さん(76歳)が「御船渡さまの下に大きなほら穴があった」ということ

で、川が遊び場だったので、遊ぶときよく入っていた」ということです。(筒井隆義)

